

2022年度創価大学教職研究科A日程入試

「教育に関する小論文」

【課題A】

次の文章は、「児童生徒の教育相談の充実について（報告）」（平成29年1月、教育相談等に関する調査研究協力者会議）の一部である。この内容をふまえて、どのような取り組みが求められるか、あなたが学級担任・ホームルーム担任だと想定してできるだけ具体的に考えを述べなさい。

これまでの教育相談は、どちらかといえば事後の個別対応に重点が置かれていたが、今後は、不登校、いじめや暴力行為等問題行動、子供の貧困、児童虐待等（中略）については、事案が発生してからのみではなく、未然防止、早期発見、早期支援・対応、さらには、事案が発生した時点から事案の改善・回復、再発防止まで一貫した支援に重点をおいた体制づくりが重要である。

【課題B】

小学校では2020年度、中学校では2021年度から実施され、高等学校では2022年度から実施される新学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進することが求められている。

しかし、2020年度のコロナ禍において、小・中・高等学校は休校を余儀なくされ、再開された対面授業においても「対話的な学び」は大きな制約を受けることになった。

そこで、GIGAスクール構想によって2023年度までに義務教育を受ける全ての児童・生徒へのタブレット配布を決めていた文部科学省は、その動きを加速させ、実現の時期を早めている。タブレットは、学校が休校になった場合に児童・生徒の学びを保証するだけでなく、対面授業で「主体的・対話的で深い学び」を実現する上でも有効なツールになり得ると考えられている。

そこで、自分が教師になろうとしている校種の1つの教科を選び、対面授業を受ける全ての児童あるいは生徒が1人1台のタブレットを持っている場合、どのような有効な利用法が考えられるか、「主体的・対話的で深い学び」をキーワードに述べなさい。

2022年度創価大学教職研究科B日程入試

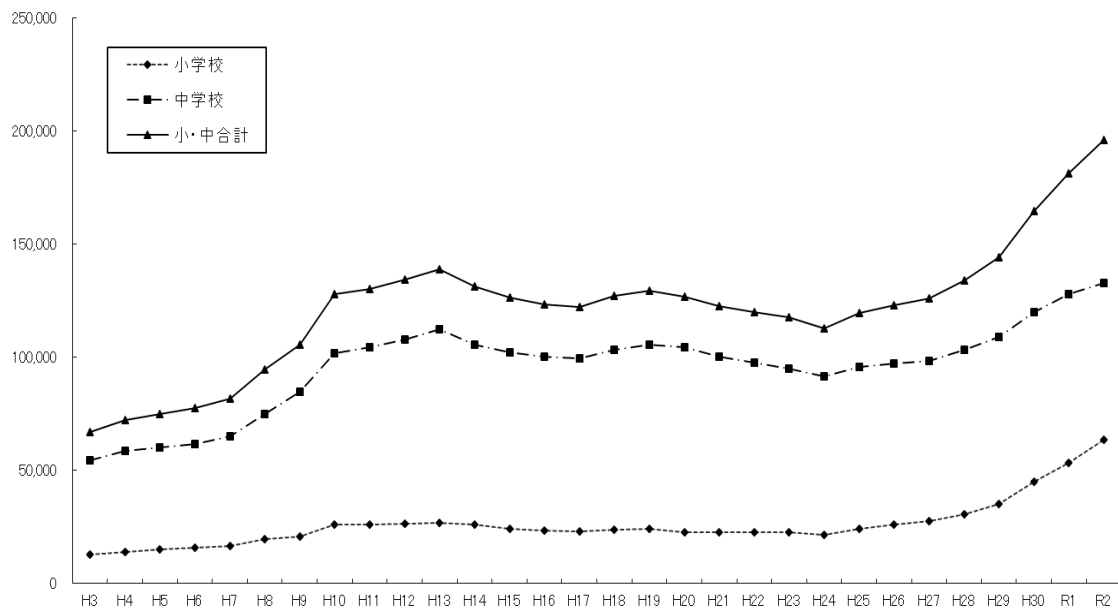
「教育に関する小論文」

【課題A】

現行学習指導要領から評価の観点、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点となった。このうち「思考・判断・表現」について、どのようなことについて、どのような方法で評価をすればよいか。小学校、中学校、高等学校の全教科の中から、校種、教科を選んで述べなさい。（具体的な単元等を取り上げて答えてもよい。）

【課題B】

下のグラフは、令和3年に文部科学省が発表した我が国の小学生・中学生の不登校者数の推移を示したものです。この図を参考に（1）（2）の問いに答えなさい。



<※ 縦軸は人数を、横軸は年号（Hは平成、Rは令和）を表している。>

- （1）このグラフから、読み取れることを書きなさい。
- （2）あなたは、教師（学級担任）として児童・生徒の不登校を予防するために、授業や学級経営においてどのように工夫をしますか。具体的に述べなさい。